

第24回

地域づくり団体全国研修交流会

愛知大会 第6分科会 日進市 報告書



2006.11.10～11

日進市

日進市民グループゆるやかネットワーク

目 次

ごあいさつ.....	3
11月10日 全体会 ウィルあいち.....	4
11月10日 第6分科会 日進市にぎわい交流館.....	5
にぎわいセッション1 ホストNPOとの交流.....	7
にぎわいセッション2 NPOビューフェ&ライブ.....	8
にぎわいセッション3 まちづくりトーク.....	10
テーマ：行政と市民の間で顔の見える関係を築き協働するには.....	10
A・B・C・Dテーブル全体のまとめ.....	13
ワークショップのまとめ 「共に支えあう！ 協働 共汗」.....	14
11月11日 NPOネットワークと協働のまちづくり.....	16
「日進市とにぎわい交流館ストーリー」.....	17
「自治基本条例づくり 市民ワークショップ」.....	19
「にっしん協働ルールブックの誕生秘話」.....	21
新海実行委員長の挨拶.....	23
質問タイム.....	23
分科会閉会挨拶.....	26
昼食タイム.....	27
第6分科会 日進市 事前アンケート.....	28

ごあいさつ

いかがでしたか 市民が元気なまち 日進市

「第24回 地域づくり団体全国研修交流会 愛知大会 第6分科会 日進市」にご参加賜りまして、誠に有り難うございました。

数ある分科会の中で日進市をお選び頂きました皆様に感謝申し上げます。

また、参加されなかった日進分科会に関心をお持ちの多くの方とも当日の様子を共有して頂きたく報告書を取りまとめました。

日進市のテーマ「協働によるネットワークのまちづくり」は、地方自治体が一様に目指す「活力ある地域づくり」、地域の活性化に欠かせないテーマに真っ向から取り組んでまいります。

市民の活力を活かすことこそ地域の発展につながるものと信じております。

我々の活動もいまだ試行錯誤の連続ですが、取り組み姿勢の事例をご紹介することで、夫々の地域の皆様の実情に合わせて少しでも参考にして頂き、一つでも地域に持ち帰って下さることを願って開催致しました。

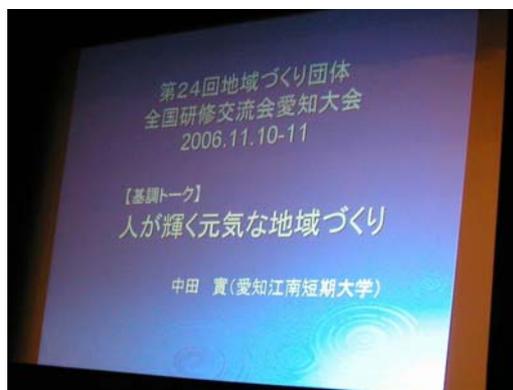
「自己紹介」や「まちづくりトーク」の中で、夫々の地域の皆様から多くのことを学びました。

参加の皆様のご協力に感謝を申し上げ、ご報告申し上げます。

2006. 11. 30

日進市民グループゆるやかネットワーク
代表 山口 軌示

第6分科会 日進市 2006.11.10~11
11月10日 全体会 ウィルあいち



11月10日 第6分科会 日進市にぎわい交流館



第6分科会 日進市にぎわい交流館



10日 参加団体の皆様 (敬称略)

川地 尚武	三重県桑名県民センター	三重
西野 祐司	愛媛県総務部新行政推進局	
	市町振興課	愛媛
竹ヶ原 公	NPONGOプロワークス+	和田
		青森
戸塚 久美子	倉真まちづくり委員会	静岡
染葉 祐一郎	倉真まちづくり委員会	静岡
荘司 満智子	水戸女性フォーラム	茨城
宮澤 敏幸	特定非営利活動法人中央アルプスの郷プロジェクト	長野
島崎 哲	岡山県企画振興部地域振興課	岡山

寺崎 敏雄	鳥取県企画部協働推進課	鳥取
新田 照夫	長崎県地域づくりネットワーク協議会	長崎
青海 康男	NPO法人いしかわ市民活動ネットワークワーキングセンター	石川
古里 明彦	YY企画	佐賀
山田 博則	佐賀県県民協働課	佐賀
辰己 義彦	黒滝村村づくりプロジェクトチーム	奈良
山口 勝	黒滝村村づくりプロジェクトチーム	奈良
木村 幸一	日本吹き戻し保存協会	兵庫

11月10日 第6分科会 日進市にぎわい交流館

にぎわいセッション1 ホストNPOとの交流

進行：岡田恭子

歓迎挨拶 日進市市長 佐護 彰

日進市議会議長 山田 芙美夫

日進市民グループゆるやかネットワーク代表 山口 軌示

皆様とホスト NPO との交流 自己紹介



11月10日 第6分科会 日進市にぎわい交流館 進行：丸茂峰宏
にぎわいセッション2 NPOピュフェ&ライブ

調理担当団体：あかまんまの会、イディア!、NPO 法人スマイルハウス、優食チャチャ、



にぎわいセッション2 NPOライブ

進行：丹羽敏朗



デザートタイム



第6分科会 日進市にぎわい交流館
にぎわいセッション3 まちづくりトーク

コーディネーター 愛知学院大学助教授 村田尚生

参加者および日進市ホスト NPO が、日頃の活動で大切にしていることや、感じていることを情報交換し、共通の認識をもつとともに、2日目の発表を聞く際の視点を明確にする。

テーマ1

- ①多くの市民を巻き込むには？
- ②行政と市民の間で顔の見える関係を築き協働するには？



テーマ2 「活動を持続可能なものにするために必要なこと」

- ①楽しみながらまちづくりを続けるための工夫（食べる・飲む・歌う…）
- ②次のリーダーを育てるには？

テーブルごとに1～2分で話しのポイントを発表し、全体での共有を行う。その際、話しを整理しながらファシリテーショングラフィックし、最後にコーディネーターがまとめます。



地域づくり交流会 まちづくりトーク

テーマ：行政と市民の間で顔の見える関係を築き協働するには
（Bテーブルの場合）

島崎哲（岡山県）、笠原（新潟県）、山田（佐賀県）、寺崎（鳥取県）

酒井、林、山口、梅村（日進市）、

林：このテーブルは行政の方がかたまりました。市民派職員が増えていく傾向でしょうか。

笠原：役所の中でネットワークをつくって、支援していく。流山市にある NPO がそういうやり方をしている。

林：アミーバみたいに内部でも仲間をつくっていく。

島崎：行政は市民が分かってないし、市民は行政がわかってない。支援してほしいは、助成金がほしい。お互いになにができるのかがわかってない部分がある。どういう役割分担ができるかが、お互いにわかってない。

林：行政は金づるみたいな。

島崎：役割分担がしっかりできれば、協働ができる。

林：それは試み中ですか？

島崎：まだ。

山田：事業をやっている中で思う。志を持った人たちと、地縁をもつ人たちの2種類。志があれば、行政をうまく利用すればよい。やりたいことをやってください、と。

笠原：自分で自主的に活動を支援するような事業もあるから、そういうので支援できる。

山田：地縁で固まった組織はやりたくないことをやらされているという意識がある。そこには行政が積極的に関わっていく必要がある。志にしろ、地縁にしろ、明確に意思を示してもらえれば。方向性がはっきりしていれば、行政は支援できる。行政は、商店街。それぞれの店にエゴがある。企業とは違う。傘も買えるし、食べ物も買える。方向性さえあれば、うまく補助事業を出せる。

林：どのカードを出せばお金が出せる、それなのに、意思がはっきりしていない、ということ。

山田：補助事業をしたいんですけど、と言われても、やりたいことがわからなければ…うまく利用してもらいたい。お金とか人力なら、行政は無限。

寺崎：協働しようということになると、お互いを知ることから、入る。ふつうの事業部局にいと、NPO は見えない。まず、NPO 同士が知り合う、集まる。環境とか福祉とかまちづくりとか、分野別交流会に集まってもらう。

林：そういう場のセットも行政がした方がいい？

寺崎：今、そういう企画をしたいと手を上げてもらおうと思っている。啓発パンフを作ってもらおうとか、NPO がやった方が効果的なんだと、感じてもらいたい。事業部局は知らないんだから、事業部局にわかってもらいたい。あと、うちの方で、提案募集をコーディネート

から始めた。事業部局に橋渡しをしていく。今年度から始めた。NPO が売り込むお手伝い。

笠原：NPO 支援セクションがある。事業を募集した。が、事業部局は、NPO ができることがわからない。そこで、共同事業にした。

寺崎：そこから行政職員が認識を新たにしないと。NPO がやってるんだ、ってことを行政は知らない。

林：笠原さんが最初に、職員の中に味方をつくると言ったけど、市民も味方を作らないと。

寺崎：声を出しやすいしかけを考えるのが、職員の役割かな、と。

酒井：対等の関係でないと。行政には、やらせてやろう、というところがあるでしょ。それでは、やってやるもんか、となる。

寺崎：受託、請負、という表現が悪い。

笠原：委託契約ということに上下関係があり、いかんといわれて、直したセクションもあるらしい。そういう面では進んできている。

梅村：日進市も似たり寄ったり。NPO の横のつながりがなかった。ジャンルが違くと全然知らなかった。それで、ゆるやかなネットワークをつくろうとした。共通の目標、一致するものがあるのだ、と。40 の団体でスタートし、70 団体になった。ただ、もう少し具体的なメリットがないと、成果が具現化しないと今後の伸びに影響する。

山口：わたしの意見は…課題は自覚。分自身の自覚。お互いの自覚。立場の自覚がないと。自覚をどうもつかについて、サジェスションをしていく。それをやらないと、どれだけ言っても、口先だけになってしまう。自覚を持って、一歩でも半歩でも踏み出す。それがだいじ。

林：山口さんが市民活動に出てきたのが、奥さんにひっぱられて。環境基本計画づくりに、ひっぱりだされた。

笠原：流山ゆうあいネットの理事長さんも言っていました。

梅村：地域に関するきっかけだが、企業人として名古屋が職場、それまでは家に帰って寝るだけだった。2000 年 4 月に地元に戻った。それまで唯一の地元活動は年に一回の市民美術展の実行委員しかやってなかった。当時この建物が市民活動支援センターとして検討に入った。ここがね、くもの巣が張って廃墟と化していた。少しは地域に奉仕しなければと NPO 活動に参加した。

酒井：きっかけは図書館です。

林：たぶん 20 年前だったら、ボランティアグループというと女性だけだった。

笠原：アジアのどこ？

山口：アジア保健研修センター、保健のリーダーを研修する。

笠原：カンボジアかどっかに小学校をつくろうって NGO が新潟にもありますよ。

山田：地縁と志の連携。地縁だと安心、安全だとか、…保安、監視カメラ。ただ、方向性が合わないと。行政は合わせる必要はないのかな、と。役所の人間は文書はきれいだけど、中身がないんですよ。役所はネットワークが大好きですから。

A・B・C・Dテーブル全体のまとめ

Aテーブル

山崎：つながりを生み出すために必要なこと、を話しました。外に拡がりを持った形で、外に発信をしながら、交流をする中で、自分自身の相対化をしながら、自分自身が育っていく、という形でやっていくべきじゃないか、という意見が出ました。あと、自分の好きなことを出し合いましょうという形で、住民の声を住民が、そして行政が知る。具体的なモノ、しくみ、しかけをいくつ作れるかっていうのが、重要なキー。具体的なものを作る中で、交流が生まれる。市民委員会をつくって、声を引き出そうとするとき、住民と行政が直で向き合うと、なかなか力にならない。住民の声を集約する役割を市民が担う、そういうコーディネータが、つながりを生み出すために必要。

Bテーブル

林：わたしの好みでテーマを選びました。4人の行政マン。県の方たちでした。行政は器を用意する、中身を盛り込むのは市民。市民はアメーバのように仲間を増やす。わかってくれないということ、理由にしないで、一步前へ。志と地縁があるが、得意なテーマがある。それを活かして、やりたいことをはっきり出す。補助金を得るにはとか姑息なことは考えずに、志を示す。

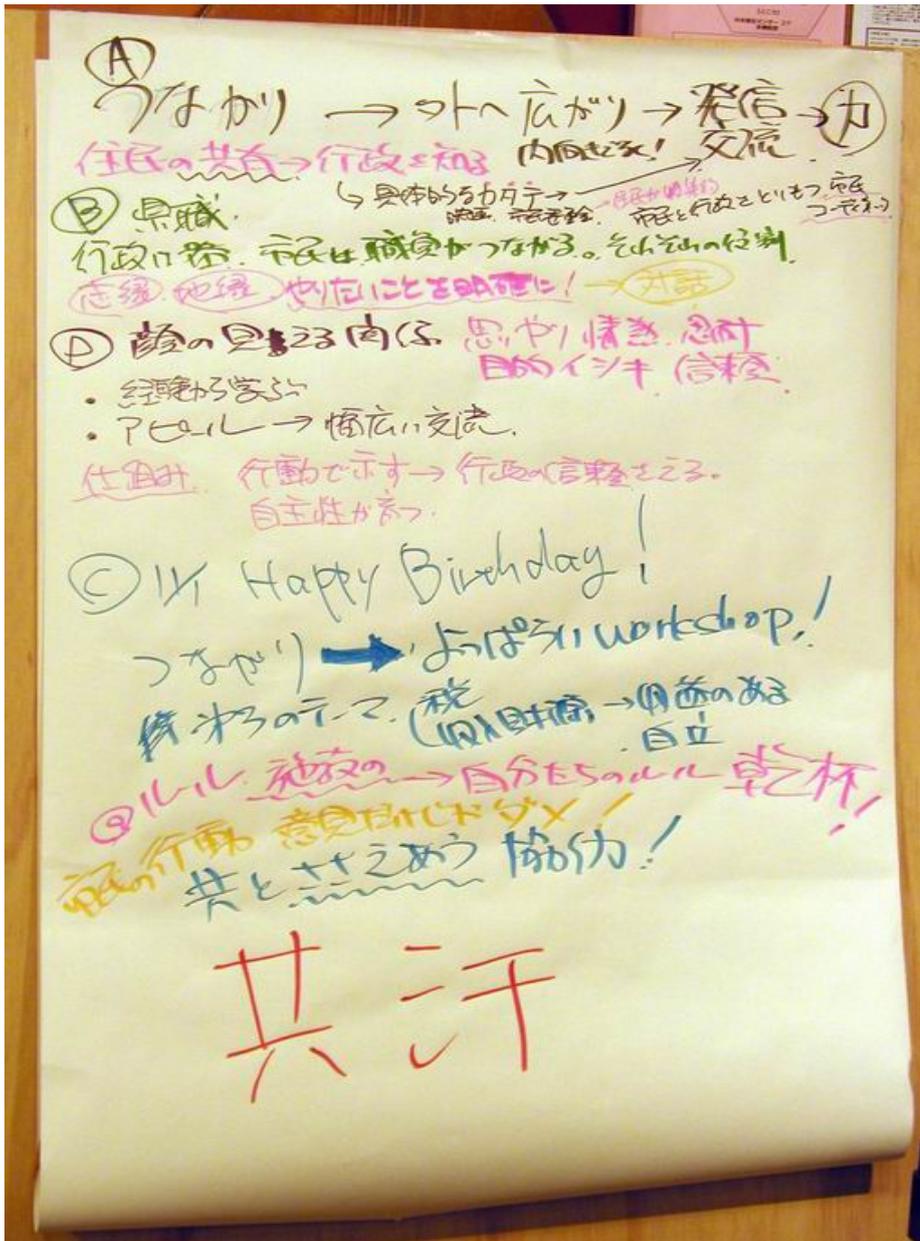
Cテーブル

中島：市民の巻き込み、行政と市民の関係について話し合いました。つながりを強めるために必要なこととして、相手の立場に思いやりをもつ、情熱、根気、忍耐、目的意識が必要。信頼関係を築く。方法として、経験から学ぶ、団体をアピールし幅広い交流。行政と市民のつながりをもつために必要なしくみ。行動で示す。行動の積み重ねが行政の信頼につながる。自主性が大切。

Dテーブル

青海康男（金沢市）：ぼくの誕生日で56歳になりました。つながりのキーポイントはそういうことだと思います。酔っ払ってこんなことを話すのはぼくは初めてです。でも、だから新しい自分がでてくるかも。テーマは、公共。共に支えあう協働ということで、決まりました。

ワークショップのまとめ 「共に支えあう！ 協働 共汗」



村田：本邦初の酔っ払いワークショップ、これでお開きです。最後は歌って終わりにします。

にぎわいセッション エンディング
 「天白川であそぼうよ」をみんなで合唱
 エンディング音楽：丹羽敏郎



天白川で遊ぼうよ

作詞 白上 永
作曲 真野賢一
丹羽敏郎

てし はくがあび あそぼうよ ゆやけ〜こやけ うたうまで
 てし はく〜があび あそぼうよ ほろほおほなめ つくしんぼ
 ほやも〜ふなも いそがしい たまごうぶこい のきせつほ いそ
 がしい〜 ~ てし

by 天白リバーバンド
天白川で遊ぼうよ

- 1 天白川で遊ぼうよ
夕焼け 小焼け 歌うまで
天白川で遊ぼうよ
春は お花見 つくしんぼ
ハヤもフナも忙しい
卵生む 恋の季節は 忙しい
- 2 天白川で遊ぼうよ
昔、父さんが 遊んだように
天白川で遊ぼうよ
夏には、カルガモ、シオカラトンボ
川に入って、四つ手網
カワセミなんかに負けないよ、負けないよ
- 3 天白川で遊ぼうよ
日進生まれのこの川で
天白川で遊ぼうよ
秋は、笹舟 ジュズ玉遊び
川原でワイワイ芋煮会
みんなで一緒に食べようよ、食べようよ
- 4 天白川で遊ぼうよ
ずっと前から流れてる
天白川で遊ぼうよ
冬はひつつく草の実とって
みんなでセーターにぶつけっこ
川原のヨシも雪化粧、雪化粧
- 5 天白川で遊ぼうよ
日進生まれのこの川で
天白川で遊ぼうよ
みんなで一緒に遊ぼうよ
みんなで一緒に遊ぼうよ

11月11日 ホテル オースプラザお出迎え一日進にぎわい交流館



11日 参加団体の皆様 (敬称略)

牧之原市役所 情報配信課 小栗弘行 大石 隆 大石光良 本間直樹 神谷清乃

11月11日 NPOネットワークと協働のまちづくり

事例発表 進行：丸茂峰宏

開会挨拶 市民環境部長 石原 東



「日進市とにぎわい交流館ストーリー」

市民交流課 課長補佐 伊藤 肇

日進市の概要：大学が7つ、大学の提携、インターンシップ、男女共同参画、日進の地理、市の真ん中を天白川が横切る。源流には、日本リスもたぬきも棲む。もともと川があるところには農耕が発達する。田んぼが広がる。周りは全部丘陵地的な山。昭和初期には1万人以内の人口。昭和46年か47年の旧住



造法。バブルの前から所得が伸びていく。偉いさんが増え、税収が伸びる。指数がまだ1.1以上。企業の税収で食っているわけではない。個人の税金。ところが、偉い人たちが退職していく。だから、人口の割には税収が伸びない。

電車が来た。赤池、日進、米野木。区画整理、自然が減っていった。たんぼがほぼ残ったまま山だけなくなった。山に人が住む。区画整理で増えた人口はどういう人か。日進は高い。バブル期には香久山は土地付住宅で1億円。だから、高所得、高学歴の人が多。出生率が全国1位の時期もあった。子どもが多い。高齢化率が伸びていない割には、労働人口がすごく多い。活気がある。運動が起き始めたのは80年代初頭。リサイクルとか子育てとか。福祉より子育てが先行したと思う。

2001年に市民活動推進のための検討会議ができた。みなさんで考えてくださいという企画。プログラムサービスとかいろいろありますが、やはり場所が必要という提言を頂いたのが、2002年。2003年4月から、市民交流センターのワークショップ。それから2年半の空白を経て予算化。その間に、ゆるやかネットワーク設立。最初は、40団体。2003年のワークショップのとき、ここを歩いた。廃墟だった。2700万円くらいで空調などを新しくした。備品はリサイクルで買った。2006年に共同声明署名式。来年の秋から指定管理者制の予定。どんな施設にするかというワークショップを17回か18回。「照れずに夢を描こう」、ということで。延べ人数で70人くらいのワークショップ。まだ生まれて1年。これからが本当の検証。何%できたか。いずれにしても市民の皆さんが出されたものを実現することを目的としてやってきた。

ここの建物と自治基本条例に大きく関係。これは補完性の原則。その中で、市民が解決できないことは、地縁コミュニティが解決できないか、志縁コミュニティが解決できないか、それでもだめなら、行政が解決できないか。テーマ型コミュニティを担当するのが、

この建物。が、この部署は、地縁コミュニティを担当する。日進はコミュニティ政策がたいへん遅れている。NPO化した地縁コミュニティがひとつだけあるが、特殊な例。

来年の秋に指定管理者制度。利用団体は今、212 団体。1 年で団体が 100 以上増えた。ゆるやかネットワーク所属が 70 団体。指定管理者制度はたいへん問題がある。失敗例はたくさんあるようです。が、市民自治の延長線上で、指定管理者を導入する。

大学交流について。大学生が入ることによって活性化する。一昨年から試行、去年スタート。大学生によるインターンシップ制度。10 大学以上に案内。12 名きた。就職活動ではなくて、NPO の現場を見てもらう。大学から NPO に行くインターンはどこでもある、が、行政が間に入るのはめずらしい。通年できる。市長の終了証を出す。顔が見える関係の中で、その方のところに出す。プログラムを用意しています。大学生がまちづくりに参加するのはとてもだいじ。プログラムを作って営業に回ろうとしている。大学が多いまちではだめ。大学生が動いているまちにしたい。

まだまだ課題はたくさんあるが、市民が支えてくださっている。役所はちょっと怒られるくらいがちょうどいいのかな、と思っている。

最後に、ひとつお伝えしたいこと。以前、孤島のプログラムというのをやった。これは自治の誕生と行政の関係を確認するプログラムです。そういうことをやるなかで、大切なことは役所がなくても自治は存在するということ。

「自治基本条例づくり 市民ワークショップ」

政策推進課 主事 三角 良栄

おはようございます。政策推進課の三角です。名古屋市から30分かけて車で通っています。本来は、川村という1番中心になった職員がやるべきなのですが、今インドの山奥で修行しております、できません。添付資料をご覧ください。9月議会では継続審議になりました。



自治基本条例には確立された定義はありません。制定済の自治体は約20です。学会でもこれ

こそが自治基本条例と確立された定義はないそうです。が、自治体の最高規範です。まちの憲法といわれることが多いです。1~5までが、どこの自治基本条例のも書かれていることです。

市民の権利の保障には、情報公開と自治への参加が含まれるのが一般的です。

2000年4月に地方分権一括法が施行されました。また、財政逼迫の一方で、市民の要望は多様化しています。これが、自治基本条例の背景です。なにもかもうまくいっている自治体には、自治基本条例は必要ない、という専門家もいます。

18歳以上の市民に住民投票としていました。マスコミはこういうところに注目します。今は、18歳とは書いてありません。

親しみやすい「です、ます調」の本文になっています。

制定プロセスを大切にしてきました。平成14年度からの事業です。できる限りの市民参加。体験型市民講座など。90回もの会議など。市民自治の実践でもあった。

「座・まちづくり塾 日進一歩」かわら版を配布してあります。この会場にも日進一歩の講師をした方がおられます。また、地縁コミュニティをインタビューで回ったり、テーマ型コミュニティを回ったり。シンポジウムは3回。自治基本条例とはどういうものかを知ってもらう。勉強会を2回開催、それから検討会開始。

集まった人々。20名枠で公募。29名が応募。全員に委員になっていただいた。プラス役所の職員11名。メンバーには学識経験者や団体代表やあて職もいません。座長もおかず、全員フラットな関係です。

16年11月に検討会スタート。17年6月にフォーラム。明治大学の牛山さんという行政学の先生をお招きしました。質疑応答をやったんですが、市民委員に直接答弁していただきました。17年11月12月に対話集会。企画から全て、市民委員にやっていただきました。

た。市内7箇所、地区単位で対話集会。

全体会、分科会含めて90回の会議でまとめた条例案を市長に提言。それをちょこちょこっといじくって、カラー版のパンフを配布して、パブリックコメント。16人1団体から85件のコメント。厳しい意見もあった。それを検討して、9月議会に提出。継続審議になった。

PI（パブリック・インボルブメント）をどうやったかも資料に記してあります。

「自治基本条例づくり 市民ワークショップ」

ゆるやかネットワーク副代表 神谷 繁雄

ようこそ日進へ。わたしは学習と提言というような切り口で、まちづくりトライアングルという小さなグループの代表をしております。70歳になりまして、年金くらしの老人です。いやなことばですけど。流入人口が8割というまちでわたしも流入者です。市の職員にはいやがられる存在です。病気のようなものです。参加した30名近い市民の一人として、思うことを述べます。時間は



4年〜5年かかっています。車座になって学習するところから始まりました。こういう取り組みがどの都市でもできるかどうかは疑問だと思います。小さなまちだからできたのかなあ、と思います。時間をかけて、根気よくやったということ。

条例づくりは…計画作りはまだいいのです。市民の思いを出せます。が、条例作りを市民参加でやるには壁があります。逆に、課題ととらえることもできると思いますが。まず、議会です。市民の代表である議会からすると、一部の市民が口を出した、と。よってくる連中はいつも同じ顔ぶれだ、と。評価される。もうひとつは職員サイド。条例案は職員の専管事項だと。職員の責任感の強さは評価しないといけませんが、出した案が職員に形骸化されては、なんのための市民参加だったかということになる。条例は、自治のルールを定めるということで、これに市民が参加するのは自治の原点。執行機関も、議決機関も、この点をしっかり認識してほしい。

ワークショップ方式での条例作りについて思ったこと。提言をどういう形で出すか。条文形式で出すのは、市民にとってはハードルが高い。条例に盛り込むべき思いを袋詰めにして市長に渡しましょう、となると、関与の度合いとしては、レベルが低い。袋詰めが条文として返ってきてから、やりとりをした1年半が、市民参加の条例作りのポイントだったと思う。

また、事前の学習。まちづくり塾。これもだいじだと思う。しかし、これの参加者と条例

作りの参加者が必ずしも一致しなかった。条例作りの前提としての学習という位置づけを明確にした方がよかった。コンサルタントのシナリオにもとづいた学習では味気ない。途中で修正しましたが。コンサルは、「わたしどもも条例作りのコンサルは初めてです、だから勉強する」と言っていました。基礎をしっかりと作った上で、根付かせる、というのが、ワークショップの流れ。お祭り式で関心を引き付ける、フォーラムなどもやって盛り上がったところで、パブコメというのがいいと思う。

「にっしん協働ルールブックの誕生秘話」

ゆるやかネットワーク副代表 梅村 隆

にっしん協働ルールブックの誕生ということでお話をさせていただきます。ゆるやかネットワーク副代表の梅村です。

サンコムネットの理事です。NPO法人サンコムネットはパソコン教室の運営IT技術で市民をサポートしています。そこからゆるやかネットワークに参加しています。



この分科会に参加の皆様は行政と市民の共働

のまちづくりに関心がおありのようですので、その点について事例を話します。

昨夜のテーブルトークをふりかえる

A テーブル 産地のいかを使った「いかバーガー」の開発

B テーブル 行政の皆さんから、NPO支援に関する手続きの簡素化

C テーブル 過疎化による人口減少に取り組み、静岡の方がお茶の悩み（鹿児島のお茶が静岡ブランドで売られている）、茨城はオセロゲームの発祥地、来年は地域づくり団体研修交流会茨城大会。女性の目線でまちづくりの提言集の発行を重ねられる。

D テーブル 行政職員として再来年には地域づくり団体研修交流会開催予定で事前学習。

言い尽くせないが、日進が先駆性で注目されすぎていて、もっとみなさんから学ぶことが多いと感じている。

（スライドを使って説明。資料の11ページから）

スライド

ルールブック制定までの経緯、日進市の地図、市民活動の背景、日進市の特徴、人口の推移、市民活動センター設立の経緯、にぎわい交流館2005年11月19日開館、協働ルールブッ

クへの取り組み、あいち協働ルールブック 2004 のこと、2004 年 8 月 3 日に署名式・499 団体が賛同、日進市 NPO 連絡会のスタート、6 法人による初会合 2004 年 9 月 22 日、日進市民グループゆるやかネットワーク発足 2004 年 12 月 3 日、ゆるやかネットワークの活動目的：交流と情報交換⇒地域の発展、17 の活動分野を 8 つに絞って、椋山学園大学の武長教授を招いて学習会、あいち協働ルールブック運営委員会にも参加、にっしん協働ルールブック理念編説明会 2006 年 4 月 22 日、署名式 2006 年 5 月 27 日 138 団体、多数の議員が来賓として出席、市議会議長の山田さんと名古屋大学大学院教授後先生に見届け人になってもらった、

後先生から見届け人は初めてというコメント、ゆるやかネットワークの活動スケジュール、18 年度、事業別に 5 つの部会で活動、ルールブック実効性の確保、今後実行編を策定、協働ルールブックに賛同した団体の推移・2004 年 12 月 44%⇒2006 年 5 月 68%意識が高まってきている。

協働ルールブック共同声明署名式 2006.5.27						
呼掛け数	協働ルール 賛同	署名式参加	欠席	興味なし	回答あり	無回答
203	138	84	54	5	143	60
	68%	41%	27%	2%	70%	30%
		68%				
日進市民グループゆるやかネットワーク発足式 2004.12.4						
呼掛け数	協働ルール 賛同	設立式参加	欠席	興味なし	回答あり	無回答
176	78	43	35	15	93	83
	44%	24%	20%	9%	53%	47%
		44%				

ゆるやかネットワークの今後の課題

- *活動時間の確保、自団体の活動とネットワークの活動の重なり
- *活動の継続性を如何に保つか、スムーズな世代交代、後進へのバトンタッチ
- *市民活動に参加し活動出来る期間（時間）、定年後の男性で10年から20年、女性は子育て後からが多く長期にわたる。
- *加盟団体の増加と人材の確保

新海実行委員長の挨拶

愛知大会 実行委員長 新海英行

おはようございます。ようこそおこしく
さいました。16 の分科会が同時に進行して
います。昨日、3 つの分科会を回りました。
今日はこの後、もうひとつ行きます。大会の
メインテーマは、ひとの元気が地域の元気。
人が元気でなければ、地域が元気になりませ
ん。裏かえしもあると思います。万博が残し
た成果が地域にじわじわ浸透していると思い



ます。昨日、とてもいい基調講演がありました。これは記録をテープからおこしまして、報
告書に載せたいと思っています。これからの地域づくりには想像力が必要です。個人的な問
題とみえるものが地域の問題です。それに気づく社会学的な想像力が必要となります。こう
いう想像力を育むのが生涯学習です。地域にぴったんこ、くつついた生涯学習が重要です。
日進市は市民参加、市民自治によるまちづくりが盛んです。

私は愛知学院の教員なので地元の間人として、参加していきたい。課題もたくさんあるが、
可能性もいっぱい秘めていると思っています。この大会をきっかけにして、発展することを
大いに期待するものです。

質問タイム

宮沢 長野県

インターネットで調べ、関心をもってきた。市民推進会議を 8 月に立ち上げ、試行錯誤中。
話を聞いて、どうしても行政と市民との間の差というかが、見え隠れする。条例にもルール
ブックにも予算が要る。市民側は条例などの形になかなか入り込めない。市民の実践として
見えてこない。開発途上国と地方自治を比べるのは失礼だが、PLA などの村落開発の手法が
ある。大学の講師は、外から来て見るパターンに似ている。PLA の手法は 10 年も前からあ
る。行政と市民が一緒になって取り組むことがほしい。ゆるやかネットに直接予算を配分す
るとか、職員がゆるやかネットに出向するとか。新潟県の栄村では住民と職員が一緒にまち
づくり。市民が参加できるプロセスになっているか。人の意思があわさって開発にならない
と意味がない。これだけ先生が入り込んでいることには、敬意を表する。

伊藤

ご意見ということでいいかな、と聞いていました。おっしゃるとおりだと思います。ルールブックも市民がつくりましょうと言ってきたもの。協働市民参加も含めて、必要がなければやらない。いいことがあればやる。そのスタンスを大事にしたい。財源の以上も是非やっていきたい。が、市民の皆さんが言い出すのがほんとう。

神谷

協働の取り組みの手法。

斉藤

中京大学教員の斉藤です。途上国とまちづくりの交流をやっている。

古里 佐賀県

自治基本条例づくり。市民委員 29 名の費用弁償は？事前学習とはどんなこと？議会での反対意見は？

三角

費用弁償は会議 1 回で 500 円。勉強会は、2 回学識者をお招きして、オープン形式の講座のようなこと。まちづくり塾も学習。反対意見としては、「必要か」。自立した自治体を目指すなら必要と説明している。3 条 1 項の「市民」の定義も争点のひとつ。「憲法」についても、「憲法なら市民に責務を課すのはおかしい」という議論。「貧しさから免れるんだから、住民でない市民にも生活保護を受けさせるのか」といった高尚な議論も。

古里 佐賀県

住民投票については？

三角

特に議論にならなかったそうです。具体的なことまでは書いてないので。

佐藤 愛知学院大学

愛知学院の佐藤まことです。インターンシップは年間 12 人。希望が増えれば枠は増えるか？大学は 7 校。活動している学校は？イベントは月に何回？

伊藤

枠は決めてない。名大や中京大からも来ている。できるだけたくさん来てほしい。活動はゼミ単位、サークル単位。AYP というたくさんの大学の学生が集まった団体もある。イベントはこれから増やしていきたい。

長谷川 金城学院大学

金城学院、学生の長谷川です。大学院、日進の NPO を研究。共同事業というと委託、共催、協力。

伊藤

実行編の中では委託に関するルール。委託料の積算方法。愛知県と仕組みづくりの競争。

村田

愛知学院の教員の村田です。昨日のテーブルトークの疑問も含めて、一番客観的に見れている、客観的じゃない部分もあると思うんですが、キーポイントじゃないかと思う部分をお話したい。伊藤さんとか三角さんとか職員は、市民活動に入ってきている。職員の立場を超えている。楽しいからはまっちゃっただけだと思うが。もうひとつのつなぎめ、志縁と地縁。ここでもひとがポイント。丹羽さんは、ここ生まれ。わたしがやっている里山の活動は旧住民と一緒にできない。そういう人と人とのつなぎ目があって、顔の見える関係ができて、その後で、ルールブックが必要だよ、ということになった。

宮沢 長野

さっき硬い話をしたので、友好的な話を。学生さんが熱心で感動。長野県にも来てほしい。行政に仲立ちしてください。

村田

地域づくり交流事業でインターンシップに出ている。ひとり豊川村に行った。

山崎

AHIの山崎です。自治基本条例がいらなくても、という点で意見を言います。学者が自治体でうまくいっているところでは基本条例がなくてもいいじゃないか、と言ったという話。日進はまさにそれにあたっている。が、だからこそ、条例ができるのではないか、と感じた。となると、他からいらした方は、うちでも作ろうと思っておられるのか、気になった。さっき PLA の話がでましたが、困難におかれている人たちが、どうやって自立に向かうか、というときに、行政の壁がある。行政がちょっと違えば、かなり前進する。

古里 佐賀

協働をしようと勉強に来た。基本条例が必要かどうかははっきりわからない。それを勉強に来た。

染谷 静岡

日進市と同じと思えるのは、川の源流域ということ。あとはまったく違う。流入人口少なく、少子高齢化。日進の高学歴高収入はたいへんうらやましい。人材と余裕がない。対極的だが、なんとかしようとして、8つのテーマをもって一生懸命やっている。予算をもらわないとなん



にもできない。それが、合併で合併した方に予算がとられる。細い道路のままでは若い人はなかなか住んでくれない。

笠原 新潟

ルールブックのこと。うらやまし。愛知県がルールブックを作った頃、新潟県にも必要だと思った。それ以来、実現しようとしているが、なかなか浸透しない。市長とかが変わっても推進されるように作る必要がある。ところが県はわりとトップダウンで決まる。ルールブックはトップダウンだったのか？

伊藤

愛知県は知事がやれということで。担当者の思いもあったと思うが。日進は市民の思い。

分科会閉会挨拶

日進市民グループゆるやかネットワーク副代表 丹羽 敏朗

おなかがすいたもんですから…。

すばらしい意見を出していただいてありがとうございます。村田さんが言ったように、人間と人間のつながりなんです。役所のことだったら、役所の人と一緒に座る時間を多くする。役所の人には仕事で金をもらっていていいんです。あとは自分の頭で考えるしかないんです。ぼくはそうしてきました。たまにむっとすることもあるんですが。



昨日、ピアノを弾いてくれた千佳ちゃんのおばあさんが皆さんのお土産にと手作り味噌をもってきてくれました。そういう人のつながりがたいせつだと思います。

昼食タイム

調理担当：ふれあいグループつくしんぼう



くるりんバスでお帰りのお見送り

市民交流課職員

伊藤課長補佐（左）と小林さん



第6分科会 日進市 事前アンケート

＜第24回地域づくり団体研修交流会 第6分科会 日進市＞ アンケート

テーブル	氏名	所属団体	住所	当日のコメント	地域活動・分科会への期待
A	宮沢 敏幸	特定非営利活動法人 中央アルプスの郷プロジェクト	長野 駒ヶ根市	人との出会いを大切にしたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会住民でNPO法人を発足。 ・「高齢者デイサービス事業」、「高齢者生産活動センター」、町おこし協働事業 分科会への期待 <ul style="list-style-type: none"> ・行政と市民との協働まちづくり推進中 「こまがね市民活動推進会議」設立 ・「ゆるやかネットワーク」の先駆的活動入手
	古里 明彦	YY企画	佐賀 唐津市	名産品「イカバーガー」を開発、わが町を面白くしたい	<ul style="list-style-type: none"> ・呼子町で「みんなの駅」事業を推進。 ・情報発信、一店逸品、休憩場の提供。 ・行政の補助を得て、情報ステーション開店。 分科会への期待 <ul style="list-style-type: none"> ・民間協働を学びたい。民間団体のまとまりと行政の仕事、どのような補助支援をしているか知りたい。
	竹ヶ原 公	NPONGO プロワークス 十和田	青森 十和田市	47歳、サラリーマン、お金をかけずに出来ることに挑戦してきた	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人との国際交流、国際理解 ・地域ボランティアと共同で高齢者支援、 ・若者参画、教育支援、リサイクル活動 分科会への期待 <ul style="list-style-type: none"> ・行政と地域支援活動とのネットワークの情報入手 ・市民委員会への情報提供(現在「福祉教育プラザ」建設検討中)
	山口 勝	黒滝村村づくりプロジェクトチーム	奈良 吉野郡 黒滝村	こもれび美術展を開催、35名の作家、75作品、5日で500人、チェンソーアート	
B	寺崎 敏雄	鳥取県企画部 協働推進課	鳥取 鳥取市	NPO支援、ネットワーキングに興味を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり団体の情報発信(情報誌発行、HP管理、相談)助言、地域づくりセミナー。団体訪問、意見交換等。 分科会への期待 <ul style="list-style-type: none"> ・協働のまちづくりの状態、進め方は分野、内容によって違う。その状況を見聞きたい。

	山田 博則	佐賀県民協働課	佐賀 佐賀市	補助事業、手続きの煩雑さ解消が課題、委託と協働の違い、行政のテクニック	<ul style="list-style-type: none"> CSO(各種ボランティア団体)の活性化。・活動の環境整備、CSO の設立、行政との連携。取組活動への支援、補助。 分科会への期待 <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくり団体が市町と協働して地域振興、新しい公共サービスの担い手の取り組まれている事例を聞きたい。
	笠原 道義	新潟県総務管理部地域政策課	新潟 新潟市	ネットワークを大切にしたい	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県庁の地域振興を支援する セクションで地域づくり団体の活動を支援をする事業を担当 分科会への期待 <ul style="list-style-type: none"> ・「協働ルールブックの作成」、「住民と行政の協働のまちづくり」、「NPO の関わり」等について体験し今後の活動に役立てたい
	島崎 哲	岡山県企画振興部地域振興課	岡山 岡山市	入庁16年目、過疎地、山間地期の活性化を協働の視点で捉えたい	
C	新田 照夫	長崎県地域づくりネットワーク協議会	長崎 長崎市	長崎大学の教員、弘法太子尊敬、住民の生活を守るまちづくりをめざす	愛知県で二十年、安城市、東海市など関わってきた
	辰己 義彦	黒滝村村づくりプロジェクトチーム	奈良 吉野郡 黒滝村	林業が中心、吉野杉、長いスパンでの生活リズム、のんびりした大和時間	
	染葉祐一郎	静岡県掛川市倉真まちづくり委員会	静岡 掛川市	地域の過疎化、人口減少問題、地場産業お茶の生産、鹿児島など他県の品が流入静岡ブランドで販売されている	
	荘司満智子	水戸女性フォーラム	茨城 水戸市	女性の元気さを売り物に活動、「おせろよ」オセロゲーム、牛乳ビンのふた、女性の視点での提言、まちづくりはダメで始まる	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の活性化に協力。 ・男女平等参画から女性の視点で街づくりの見直しを始めた。 分科会への期待 <ul style="list-style-type: none"> ・市民団体と行政の協働の姿を学習したい。

D	青海 康夫	NPO 法人い しかわ市民 活動ネットワ ークキングセンター	石川 金沢市	市民活動にこだわりを 持つ	・金沢市と共に「協働をすすめる市民会議」 のコーディネーターとして「協働推進計画」を策 定中 分科会への期待 ・地域団体(地縁組織)と市民団体(NPO 等 公益活動組織)との協働について知りたい
	木村 幸一	日本吹き戻 し保存協会	兵庫 久留麻	木工伝統工芸を伝承 しつつ新たな取り組み	
	西野 祐司	愛媛県総務 部 新行政 推進局 市 町振興課	愛媛 松山市	4月から担当、学習が 始まったばかりで多く を学びたい。	県職員として、地域づくりの団体を支援 分科会への期待 全国の様々な地域づくり活動を見聞したい
	川地 尚武	三重県桑名 県民センター	三重 桑名市	三重県庁、行政4年 目、民間12年のキャリ アを活かしたい。	コーディネーターに徹したい。住民の怒りをな だめる。帰りには笑顔で送り出すのが仕事
	戸塚 久美 子	静岡県掛川 市 倉真まちづ くり委員会	静岡 掛川市		
	小栗弘行	静岡県牧之 原市役所 情報発信課	静岡 牧之原 市		地頭方地区地域づくり研究会 めだかの会 NPO ビタミンネットワーク 分科会への期待 これからの市民自治を確立するにあたり、市 民意識の醸成をどう図っていけばいいか、ま た、自治基本条例を策定するにあたり、市民 意見をどんなふうにとまとめていけばいいかな ど、アドバイスを頂けたらと思います。
	大石隆	静岡県牧之 原市役所	静岡 牧之原 市		現在、仕事半分、市民の立場半分で市民の 方と朗読劇に取り組んでいます。また、市民 の方と意見を交わしながら、公共の事柄に取 り組んでいます。 分科会への期待 色んな人と色んな話をしたい聞きたい気持 ちです。

<p>大石光良</p>	<p>静岡県牧之原市役所</p>	<p>静岡県 牧之原市</p>	<p>保育園児から高齢者までの区民が一堂に会 する運動会から、年齢にあった球技大会等 を開催し、地域のふれあいと健康増進を目 的とした体育事業の企画、運営するお手伝 いをしています。</p> <p>分科会への期待 地域で解決できる問題は、地域で解決して いくためには、それぞれがどう役割を果たす べきか。また、自治基本条例を策定する際、 どのようなプロセスでいろいろな立場の人と 意思の疎通を図り、条例を策定していけば 実効性のあるものにできるかなど、多くの ご意見をお聞きできればと思います。</p>
<p>本間直樹</p>	<p>静岡県牧之原市役所</p>	<p>静岡県 牧之原市</p>	<p>・フォーラムまきのはら まちの活性化 ・牧之原市消防団</p> <p>分科会への期待 自治基本条例の事例確認 具体的には下記の5点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村の状況と制定の経緯 ・条例制定の基本スタンス ・制定において苦勞した点 ・準備会の前に用意しておくもの
<p>神谷清乃</p>	<p>静岡県牧之原市役所</p>	<p>静岡県 牧之原市</p>	<p>協働のまちづくり「フォーラムまきのはら」に 参加しています。・・・が、自問自答の日々で す。</p> <p>分科会への期待 これからスタートする「自治基本条例」の策定 に向けて、ヒントがもらえたら・・・と思っていま す。</p>



第24回 地域づくり団体全国研修交流会
愛知大会 第6分科会 日進市

日進市

日進市民グループゆるやかネットワーク

2006年11月30日

b